

他者を信じ、他者と生きることの難しさ

～発達障害・トラウマ・ひきこもりの臨床から～

*当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期研修機会(ワークショップ)」の承認を受けております。<承認期間:2017年7月1日～2022年6月30日 承認番号:W29111>

期 日:2019年7月14日(日)

受講対象:教育・医療・相談・福祉・保育の各機関・現場で、子どもに関わる専門家および興味のある方々

定 員:120名(定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください)

受講料:7,000円(税込み) ※昼食は各自おとりください

主 催:公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

会 場:北海道自治労会館 4Fホール

札幌市北区北6条西7丁目5-3 ※詳細地図は受講証に添付します
(JRおよび札幌市営地下鉄南北線「札幌駅」から徒歩約6分)

★★★★ 企画講師 ★★★★★

こころとそだちのクリニック むすびめ 院長 田中 康雄 先生

恒例の夏の北海道セミナーがやってきました。今回は、臨床における他者関係、二者関係について考えてみたいと思います。

現代ほど、他者を信じ、他者と生きることが難しい時代はないのではないのでしょうか。その一方で、われわれは、他者を求め、他者との関係性に支えられ、守られて、今を生きようと切望しています。時に、あまりの負担に打ちひしがれ、前を向くことが難しいと感じるとき、あるいは支え手がないとき、途方に暮れることもあります。そんなとき、われわれは、困難な理由を創作し、意味づけを探し続け、なにかに依存し、社会から撤退し、苦悩を軽減あるいは棚上げしようと試みる場合があります。

精神科医療を活用する方々のなかに、そんな方々のほんの一部のかたもおられます。

相手の思いに思いを重ね、関係性を作ろうと心がけてはいても、時に僕は関係性が作りやすく、言葉が届いていないと痛感し、せっかく受診していただいたのに、益在る関わりを提供できなかったと、申し訳なく感じる場合があります。

そんなとき、「他者を安易に信じることなく、他者と手を携えて生きることに難しさを感じる方かもしれない」と、僕は自分の無力さを棚上げした判断をしてしまいます。

今回来ていただける2名の精神科医は、僕が日頃から信頼し、尊敬しているかたです。今回のセミナーでは、発達障害、トラウマ、ひきこもりの臨床から、日頃感じる関係性の樹立の難しさについて、考えてみたいと思います。沢山の参加を期待しています。 【田中 康雄】

【プログラム】

	時間	テーマ	講師(敬称略)
7 月 14 日 (日)	9:45~11:15	趣旨説明・ 発達障害臨床の視点から	こころとそだちのクリニック むすびめ 院長 田中 康雄
	11:30~13:00	トラウマ臨床の視点から	駒木野病院 診療部長 笠原 麻里
	13:00~14:00	昼 食 (各自おとりください)	
	14:00~15:30	ひきこもり臨床の視点から	大正大学 心理社会学部 臨床心理学科 教授 近藤 直司
	15:45~16:45	意見交換	出席講師全員

※時間割・テーマ等が変更になる場合があります。予めご了承ください。